



ベビーは元気に産まれたけど・・・出血だけではない 母体合併症とその対策

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡県母性衛生学会 公開日: 2023-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大橋, 涼太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004320

ベビーは元気に産まれたけど・・・出血だけではない母体合併症とその対策

くさなぎマタニティクリニック院長

大橋 涼太

近年出産年齢の高年化および生活習慣の変化などによって、妊娠・出産のリスクが増加していると考えられます。それはクリニックにおいても言えることで母体の合併症も増加傾向にあると常々考えています。

今回の講演では以下の内容について自分の経験をふまえながらお話させていただこうと思います。

1. 産科出血と産科危機的出血への対応ガイドラインについて

帝王切開率が上昇し、多胎なども増えた現在において500ml＝大量出血という考えは当てはまらないと考えられます。こうした中2010年に産科危機的出血への対応ガイドラインが作成されました。
(スライド1-4)

2. 産道損傷特に膣・外陰部の血腫について (スライド5-7)

3. 癒着胎盤について (スライド8-11)

4. 子宮内反症について (スライド12-14)

5. 深部静脈血栓症および肺塞栓症について (スライド15-16)

6. 産褥期感染症のうちMRSA感染症とA群溶連菌（人食いバクテリア）について (スライド17-20)

産科臨床ではたとえ10年以上の経験を積んでも全く見たことのない症例に急に直面する可能性が常にあります。日々少しでもいろいろな合併症に対して知識を深めること、急変に直面しても慌てないことが肝要だと考えられます。